入善町報

発行所　入善町役場
編集発行　責任者　中田憲政
印刷所　田中印刷所
定価1部5円

町政

町議会のもよう

追加予算一千二百万円

第八回町議会定例会が七月二十六日開かれ、第二回追加更正予算など十五議案につき審議のうえ原案どおり可決した。なお、岩場議員外三議員から提案された「アメリカのレバノン派兵に対する決議案」につき討議し決議した。

主な議案

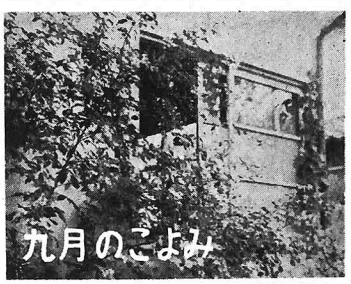
1 入善町財政再建計画中一部変更の件
2 第二回追加更正予算
総額一、二三六万九千円
の追加
・小型動力ポンプ四台購入費一〇四万円追加
・教育費　八五万円追加
（上青中学校増築費を減じ、小摺戸小学校講堂移築費一三五万円等追加）
・母子センター建設費三七四万五千円追加
・産業経済費二〇二万六千円追加
・諸支出金四七〇万八千円追加
・新町建設計画課事務費三六万円追加
3 建設審議会条例の制定及び町条例七件の一部改正
4 小摺戸小学校講堂移転工事の件
5 消防用小型動力ポンプ購入の件
6 寄附採納二件
7 その他

アメリカのレバノン派兵に対する決議

アメリカのレバノン派兵は国連憲章第五十一条を採用しているが、これは外敵侵入に際してのみ採用できるものであり、今回の行動は、国連憲章に名を借りた明らかな内政干渉であり、独立と平和を願う世界諸国民の悲願を裏切る冒険事である。このことは、アジア、アメリカの安全と世界の平和を願う日本国民にとって、見逃すことのできない痛恨事であり、日本政府は侵略を是認することなく、直ちにアメリカの撤兵を主張するよう要求する。

右決議する。

一九五八年七月二六日
入善町議会



一日（月）関東大震災記念日
二百十日
一～七日　性病予防週間
10日（水）身体障害者職業更生週間（十六日まで）
11日（木）二百二十日
11～17日　国体夏季大会（高岡市で）
15日（月）としよりの日
としよりの福祉週間（三十一日まで）
20日（土）彼岸の入り
入善町国体旗掲揚リレー
航空記念日
動物愛護週間（二十七日まで）
23日（火）秋分の日（彼岸の中日）
23日（水）国土美化運動（三日まで）
26日（土）十五夜

病害虫駆除費一千万円余

農薬使用五倍以上

ウンカだけで一千万円消費

四年連続大豊作のよろこびが伝えられる陸に、いろいろと苦心のほどがうかがわれるが、これを農薬使用の面から眺めてみよう。

全地域の今年の農薬使用総額は、八月十日現在でに二一、五二六、三七〇円になっている。多分本年度の金額を締めたら二千五百万円になるものと推定される。昨年度の五倍以上になる。

殊に本年は、ウンカの異常発生によってマラソン粉剤の使用は一千一百万円にもなる模様で、この分だけでも今年はよけいな失費をしていることになる。

病害虫駆除状況
（八月十日現在の農薬使用量）

稲熱病	二、〇八七、三二〇	円
泥負虫その他	二、三一六、〇〇〇	円
ウンカ	一〇、五五五、九一〇	円
紋枯病	三、五六、三一〇	円
野鼠	一、一八〇、〇〇〇	円
合計	三、一三二、三二〇	円
葉たばこ、蕨菜	一、一三二、〇〇〇	円
総計	三、二六二、三二〇	円

ウンカの発生は、毎年多少みるのであるが、今年は驚異的な異常発生で、吉原方面などにはウンカの被害で赤黒く稲が萎えしぼみ、七～八割の大減收が予想されるものがある。大概は駆除がおそかったことによるようだ。農業共済組合事務所では、本年の被害に鑑み、明年からは全町一齊駆除の敢行を望んでる。なお、他町村に比して極めて少かった縞虫も次第に増しつつある傾向でもあり、また、野鼠の駆除も同時に行うことが出來、経費労力も軽減するため、明年はホリドール（メチルパラチオン）の全町一齊撒布を目論でいる。ホリドールであると、一〇〇トン（価格一一、五〇〇円）あれば全町に撒布出来るといっている。

甲子園で活躍した林選手を迎える

神林出身

第四〇回全国高校野球大会に富山県代表として魚津高校の選手が甲子園の檢舞台に出場した。郷土旧下新川郡の住民としては、この初出陣を心から祝福あったのであるが、へき頭優勝候補の浪華商業を二対〇で討取り、続いて名門明治高校を七対六、強豪桐生高校を三対〇でそれぞれ却けて準々決勝に進み、徳島商業との対戦に十八回の延長戦のすえ引分けとなり再試合を行ったところ惜しくも敗れたのである。しかしながら魚高ナインの真摯な健闘ぶりは同大会の華といわれ、郷土の名声を天下にとどろかせたのである。

この魚高チームの中にわが入善町上田の林美能君（18）の加わっていたことは、本町スポーツの振興の上に大いなる意味を持つものといわねばならない。

八月二十日午後五時同校浜田野球部長、林選手、補欠選手滝沢正一君（17）全飯田征君（16）の帰還の際米沢町長、柚木県議等をはじめ町民多数が駅前に出迎え、引続き中央公民館で盛大な歓迎会を催した。

（写真は対桐生戦で林選手が生選した瞬間）

海外引揚者の皆様へ

海外引揚者の方に給付金が支給されることになっていますが、いまだに手続されていない引揚者、その遺族及び引揚前に死亡した者の遺族の方は至急役場の民生課においでになり、請求手続をして下さい。

君島部落に共同納骨塔建つ

君島に共同納骨塔の再建工事がこのほど完成し、七月二十七日午後一時その除幕式が行われた。

この納骨塔は、鉄筋コンクリート建で、室の内のり三間四方という立派なもので、総工事費八十一万余円を要した。

最近生活改善の立場から共同納骨塔の建設がとりあげられるようになったが、この、君島部落では、大正三年（四四年前）すでにこれを実現している。当時同部落の御大、故室子次郎氏の音頭で、同部落の墓を一ケ所に合同し、宮の境内にお墓をつくり今日に至ったのであるが、今回お詣りのしやすいように横の広い場所に移し、墓標も立派なものに建てかえられたのである。

この納骨塔は、室の内のり三間四方という立派なもので、総工事費八十一万余円を要した。

最近生活改善の立場から共同納骨塔の建設がとりあげられるようになったが、この、君島部落では、大正三年（四四年前）すでにこれを実現している。当時同部落の御大、故室子次郎氏の音頭で、同部落の墓を一ケ所に合同し、宮の境内にお墓をつくり今日に至ったのであるが、今回お詣りのしやすいように横の広い場所に移し、墓標も立派なものに建てかえられたのである。

（写真は納骨塔の全景）

入善町風土記

…49回…

流水客土の元祖藤田家

竹内慎一郎

流水客土の生みの親、元県議、伊東森作氏は「流水客土の眞の元祖は新屋の島部落の藤田家である」と云っておられる。伊東氏の話を要約すると、

「昭和十七年、郡農会長鹿熊久安氏から、宇奈月の藤田与次君が農場を開くのとたのまれ、藤田氏を訪れた。藤田氏は『私は新屋の島部落で生まれたが、祖父も父も揃って百姓のムシでなく不毛の石川原を拓いて田圃にし、草高三百石までになった。あとを継いだ私は医者になり、県会議員になり内山村長になって、とうとう親から受けついだ田圃を売り拂ってしまった。

ところが今は大戦争のさ中で、寸土も耕せと叫ばれている。然るに私は一粒の米も供出出來ないで徒食している。さぞやあの世で父や祖父達がなげいているだろうと思うと、居ても立っても居られぬ思いである。

そこで武野一ぶの……字奈月の西の谷川の北側、十二貫野用水上の台地）の開拓を思いつき、武野に小屋を建てて、息子と二人で開墾をはじめた。その内に開墾の過労から息子は病気でたおれ、臨終に、水、水、とうわごとを云いながら息を引取った。父祖も息子もこのように田地に示した強い執着を思うと、是が非でもこの仕事を完成したい、と率直に訴えられ、之に感激して無給でこの仕事を引うけた。

どうにか田圃の形が出来たが、作土がない。藤田氏は『作土なら心配するな、私の家では代々川上から川砂や泥を流し、之を開墾地に流し込んで千歩に余る田圃を何十枚と作ったものだ。これは私の家だけでない。島部六千町歩の田圃はみんなこうしてこしらえたものだ』と云って、谷川の上流を堰き止め、山を崩して泥を流しこんで、とうとう奇想天外の客土法に驚嘆した私は、翌十八年東大教授塩入博士がこられ、黒部六千町歩の老杉田を軌道運搬によって赤土客土を施入し、若返らせよ、とすすめられたとき、藤田氏が教えてくれた方法を思い出し、自分で『流水客土法』と名づけて之を主張宣伝し、世人の嘲笑非難を押し切って、数年後遂に実現の運びに至ったものである。若し藤田氏の教えがなかったなら、この世に流水客土は生まれなかったであろう」と。

武野の開拓地は後に藤田氏の手をはなれ、昭和十九年から二十年頃内山村長竹山氏から本町米沢与三次氏が之を買取り、農夫を入れて流水客土法による開墾を継続された（古谷常三氏談）

藤田氏の又祖が流水客土で千歩に余る田塩を打ち枚も作ったというのは、島と慕ノ木の中間にある大羽塚の大田の事で大正の頃までここで馬寄せが行われた。

台風被害と税の減免

台風等による被害を受けた場合、どうすれば税金の減免をしてもらえるかを知っている人は案外少い。台風期を控え、次に手続のあらましを解説して、損をする人のないようにしたい。

1 災害被害者に対する租税の減免、徴収猶予に関する法律による場合

災害や盗難で、家屋家財、現金などの資産に一年間の所得金額の一割以上の損害があれば、この法律で税金の減免をはかることができる。

3 どちらが有利か

災害による税金の減免には、以上の二つの方法があるが、これらを利用するにはそれぞれ一定の条件が必要である。すなわち災害減免法を利用するには、まず所得金額が八〇万円以下でなければならないし、損害の額が家屋や家財の価額の半分以上にならなければならない。一方雑損控除には損害額が、年間所得額の一割以上にならないと利用できない。

ただ、どちらの方法でも利用できる場合には、とりあえず災害減免法の申請をしておいて、確定申告のときに有利な方へ切り換えればよい。

詳しいことは実際に被害が発生した際、税務署へお問い合せ下さい。

魚津税務署

2 所得税法（雑損控除）による場合

所得金額八〇万円以下の人が台風、火事、洪水などのために、住宅や家財に大きな損害（それらの半分以上に及ぶ損害）を受けるとこの法律で税金の軽減や免除を受けることができる。

郷土の誇り黒四発電

しかし冷水流砂問題で頭痛

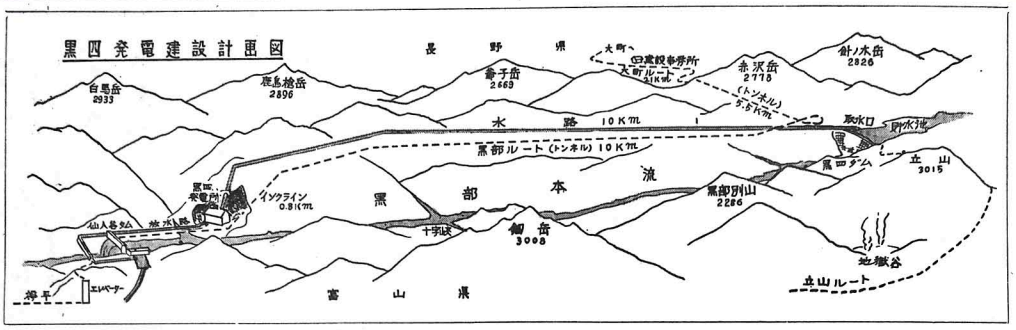
「東洋一を誇る佐久間ダムをいくつもうのみにする大きさ——」といっただけで、黒部川第四発電所の御前沢ダムの、ケタはずれた大規模のほどが知れる。

黒四発電は、御前沢（立山のま裏）に高さ一八六米の堰堤を築いて、一億五千万トンの水を溜め、これを一〇粁はなれた東谷（仙人谷の上流一粁）までトンネルで導き、二十五万八千KW（キロワット）の発電をする計画だという。

この発電所の特徴は、全部地下に設けられ、外から全然見えないことである。

人跡未踏といわれ、人を寄せつけなかった奥黒部に水路も発電所も、また資材の輸送路も一切トンネルをこしらえて行う建設工事であるから経費も従ってボーダな大なものとなり、総額約三百七十億円を要する。

工事の完成するのは、昭和三十七年十月であるが、昭和三十五年十月から一部通水、発電をするそうである。



↓作業谷のズリ捨場

どんな大雪、なだれもこわくない地下発電所

この地方では、どんな大規模の発電所でも、冬の備えに困ることと、冬期渇水には全く手を揚げるのだ。ところが黒四発電の場合は東谷に二〇万m^3の大洞窟（富山の大和が三つぐらいもはいる大きさ）を作り、そのドームの中に発電所などを作るので、どんな大雪にも、どんな雪崩れにも心配のシの字もいらず、また年中同じ量の発電ができるので、下流の発電所の冬期渇水のうれいを除くことができるだけでも非常にプラスになるということだ。

黒四発電の発電能力は、二五万八千KWであるが、この電力は、東京都、滋賀奈良両県の全使用電力に相当するとのこと。

工事は昼夜兼行で

この工事は、導水路及び、信州の大町から御前沢に至る大町ルートと、御前沢から仙人谷に至る黒部ルートとを結ぶ自動車の輸送路が作られるのであるが、仙人谷方面の工事は、今盛んに黒部ルートのトンネル、導水路のトンネル、それに東谷の大洞窟とを掘っているのである。現在のところルートの方は、十字峡の奥の棒小屋沢を越えており、導水路は二千数百メートルまで進んでいるらしい。

これの全通は明年三月の予定、晝夜二交替の強行軍である。

この工事を進めるため、ばく大なズリが出るが、東谷では迂廻水路を作って谷が埋まってもよいように配慮してある。また、他のズリ捨場も、観光をそこねないように指定された箇所だけに限られている。

砂で埋まった仙人谷ダム

町長等の現場視察

意外の流砂に驚く

いかに配慮されていようと、推定毎日二～三〇〇m^3のズリが捨てられるとしたら、これが流砂原因にならないはずが無い。工事開始以来流砂被害が頻々と農民から訴えられているので、町当局は、その究明に乗り出すことになり、農民代表を含じえた二十名が二班に分れて黒部ルートから東谷方面の現場を、米沢町長、松田議長らは大町ルートから野与蔵氏を招き、中央公民館分館長大会を催した。講師として県社会教育主事大館長、八地区館長、六十二名が、ぞれぞれ八月十一日までに視察を遂げた。

この視察の状況は、すでに新聞紙上にも報じられているが、大風が吹きすぎまして、上流から押し流された砂礫で、さしもの仙人谷ダムも殆と埋まり、今後は一時的にもダムに止まらず直接に砂が流れて来るものと思われる。また、樽沢などではズリで谷が埋まり、水がズリを滲透して流れ出ている状態で、大水の際はこのズリが押し流されて出るものと思われる。とにかく今後の流砂は一層はげしくなる模様で、視察者一行は眉をひそめている。

第六回町公民館分館長大会

連絡所廃止後の地区館運営等協議

八月十九日午後二時下飯野分館で第六回入善町公民館分館長大会を催した。講師として県社会教育主事大野与蔵氏を招き、中央公民館分館長大会を催した。講師として県社会教育主事大野与蔵氏を招き、中央公民館長、八地区館長、六十二名が集り、昭和三十三年度予算並に事業方針、協議事項、分館活動の実態発表と、予定のプログラムを進め午後五時盛会裡に会を閉じた。

▲事業方針（重要目標）

1 青年学級、婦人学級の育成
2 地区公民館の充実
3 視聴覚教育の振興（映写技士の研修）
4 新生活運動の実践（公民館結婚の奨励）
5 社会体育の振興（国体開催と明朗化運動の推進）
6 郷土文化の発展（文化財の保護、文化団体の育成）
7 連絡所廃止に伴う地区公民館の問題点
8 映画教育の発展に伴う新しい障害点
9 青少年の新傾向とその対策
10 国体開催と県民明朗化運動について
11 その他

▲分館活動の実態発表

1 下飯野分館の建設と運営
2 道古、宮坪、農愛分館の建設概要
3 青木新分館の認定と設の概要
4 笹原分館の結婚式について
5 小摺戸分館の合同結婚式について
6 田中分館の見童クラブ育成について
7 その他

新語教室

バイヤー　品物を買う人のことだが、外国から日本商品を買いに来る人のことをいう
ニュー・ルック　新しい流行
モード（仏語）　流行・形式
ファッション　流行
リーグ　連盟、リーグ戦というのは総当り方式の順位決定戦
メッセージ　伝言、挨拶
バンガロー　簡単な西洋建の小屋
ヒュッテ　山小屋
ヒップ　尻、腰、尻まわりの寸法
ルポルタージュ（仏語）　記録、報告、現地ルポなどと略語が用いられている

日本脳炎に御注意

日本脳炎が各地に発生して、秋風が吹きそめましたが、いまだ衰えを見ません。本町にも七月に日本脳炎の擬似症が出ていて伝染するのです。主に十才以下の子供と、五十才以上の人に多い伝染病です。

今のところこの伝染病に対する特効薬がなく、死亡率は約三〇～四〇％でなおっても後に多少の精神障碍を残すやっかいな病気です。

予防法としては予防接種を受けることと、蚊を撲滅することに努め、炎天下帽子を被らず遊び廻ったり、過重な労働をしたり、睡眠不足な生活をするなどは避けるようにしなければなりません。

この病原体は、日本ビールスで、蚊が患者の血を吸って、他の人に移すか、または患者の咳やクシャミなどの飛沫によって伝染するのです。主に十才以下の子供と、五十才以上の人に多い伝染病です。

今のところこの伝染病に対する特効薬がなく、死亡率は約三〇～四〇％でなおっても後に多少の精神障碍を残すやっかいな病気です。

予防法としては予防接種を受けることと、蚊を撲滅することに努め、炎天下帽子を被らず遊び廻ったり、過重な労働をしたり、睡眠不足な生活をするなどは避けるようにしなければなりません。

入善図書館新着案内

書名	著者名
自殺の哲学	齊藤 昫
神と悪	飯島 衛
心理学入門	波多野完治
公務員の倫理について	金森徳次郎
山と雪の青春	伊東洋平
ヨーロッパ三等旅行	戸塚文子
欧洲スクーター旅行	桶谷繁雄
山県有朋	岡 義武
日本列島	湊 正雄
中学生の心理	波多野勤子
日本人の服装	村上信彦
入門より完成まで商店会計実務	大橋克己
簿記実務記帳より決算まで	大橋克己
縁談から新婚旅行まで	下条美彦
国会	
問答式印紙税相談	堀 敏夫
農家向き改良かまど	居関久男
日本の農村と教育	大田堯
女の記録	読売新聞社
放射能	村上悠紀雄
鳥類学五十年	内田清之助
科学はここまで来ている	丹羽小彌太
健康はつくられる	田多井吉之助
愛生園日本	光田健輔
技術革新	星野芳郎
住宅の健康法	清水 一
ぶどう酒物語	薩摩治郎八
栄養化学	稲垣長典
病害	櫛岡良夫
農業気象	中原孫吉
草花	明道 博
富士の初雪	川端康成
四季の演技	丹羽文雄
人間の壁	石川達三
赤ちゃん	佐々木邦
息子の結婚	林 房雄
番茶菓子	幸田 文
おとうと	〃
かもめ夫人	〃
光る道	〃 壇 一雄
永岡家の姉妹	藤田澄子
緑の愛人	藤沢桓夫
愛とおそれと	佐多稲子
パリ留学生	芹沢光治良
愛染天使	藤原審爾
林芙美子	板垣直子
瀬石と徴笑	岡崎義惠
森鷗外	唐木順三
文学的人生論	佐吉純一郎

あとがき

本紙も十月で四十三号、前身の公民館報七号を通算すると五十号になります。

その記念行事として本紙を全部保存しておられ、その由はがきで教育委員会宛御案内の方に、審査の上、心ばかりの記念品を贈呈致します（多数ならば抽籤で）

締切り　九月末日
祖品贈呈　十一月中
なお、特製の町報表紙を六十円でおわかちします。